

テモテ第一6章12節 「立派な信仰の戦い」

1A 恵みによる救い

1B 狭き門

1C 選ばれる人の少なさ

2C 信仰から離れる者たち

2B 信仰に留まる戦い

1C 最後まで競争

2C むだにしない恵み

3C イエスご自身の戦い

3B 信仰による獲得

1C みことばに対する敬意

2C 試練における真価

3C 誘惑に対する愛

4C 立派な心

4B 永遠のいのちの賜物

1C 今のいのち

2C 後の報酬

2A 立派な戦い

1B 内なる戦い

1C 追い求めるもの

2C 避けるもの

2B 外の戦い

1C 信仰の教え

2C 信仰の働き

本文

テモテへの第一の手紙 6 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、ついにテモテ第一の最後の章に来ました。午後礼拝で、一節ずつ見て行きます。今朝は、12 節に注目します。「**信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前で素晴らしい告白をしました。**」信仰の戦いを、立派に戦いなさいということです。

1A 恵みによる救い

私たちの教会は、今年、先月から次々とバプテスマを受ける方々が与えられています。その方々への励ましであると同時に、私たちの教会全体の励ましにもなるお話をしていきたいと思えます。私たちは、神の救いは、その恵みによることを知っています。「エペ 2:8-9 この恵みのゆえに、

あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」全く、自分自身の行いによるものではありません。神からの賜物です。その恵みを、信仰を通して受け取っています。

1B 狭き門

これほどまでに、主は、救いについて敷居を低くしてくださって、誰でもご自身のところに来ることができるようにしてくださいました。しかし、残念なことに、信仰から離れる人が多くいます。日本ではキリスト者の平均寿命は 2.8 年だ、なんて噂されたことがありました。ある著名なキリスト者が、自分の著作にて、ある人の統計を書いて、それで広がりましたが、実は一つの教会での統計にし過ぎなかったということです。ですから、客観的な数字ではないのですが、それでも、信仰の競走を、初めはよく走っていたのに、最後まで走らずに脱落する人たちが多くは、事実でしょう。

これほどまでに、すべての人に招かれている福音なのに、ただで受けなさいと呼びかけられている福音なのに、それでも信仰から離れてしまう現実を、イエス様ご自身が語られています。主はこの現実を、狭い門と呼ばれました。「マタ 7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。」

1C 選ばれる人の少なさ

こうも言われました。「マタ 22:14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。」これは、王子の披露宴に多くの人を招いたのに、いろいろな理由でその招待を拒んだ喩えの後に、言われた言葉です。さらに、その式場に来たのにも関わらず、礼服を着ないでやって来ています。多くの人を主は救いへと招いているのに、それにきちんと応答して、選ばれているのは少ないのです。

2C 信仰から離れる者たち

この手紙の中にも、信仰から離れた人々が出て来ていました。「1:19 ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にいました。」「4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」

2B 信仰に留まる戦い

信仰を持ったばかりの人々には、どうして信仰から離れることなど、できるのだろうか？と思われるかもしれませんが、しかし、このような危機は現実として起こり得るのです。初めに福音を聞いて、それを信じて受け入れるだけでなく、その信仰をしっかりと保ち続ける必要があるのです。

1C 最後まで競争

ヘブル人への手紙の著者は、このように励ましています。「3:13-14 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかりと保ちさえすれば、です。」

最初に与えられた確信を、終わりまでしっかり保ちさえすれば、キリストにあずかるようになる、とのことです。信仰に至って、その信仰の中に自分を留まらせる努力が必要ということです。

2C むだにしない恵み

パウロは、このことを、「恵みをむだにしないでほしい」といって勧めています。「Ⅱコリ 6:1 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを無駄に受けないようにしてください。」神の恵みを受けているのに、まるでその恵みがなかったかのように、その後、生きている時に、「神の恵みを無駄に受けている」ということになります。

3C イエスご自身の戦い

数々のみことばから、信仰によって生きるのは、神の恵みによるけれども、そこには戦いがあることがお分かりになったかと思います。その戦いの根本的なところは、何でしょうか？それは、まさに、信仰の完成者であられるキリストご自身の葛藤にあります。ゲッセマネの園で、イエス様が激しい戦いを経ました。「マタ 26:29 わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」自分との戦いです。イエス様の願いは、杯が過ぎ去ることでした。その強い思いがあるけれども、父なる神のみこころは、異なります。信仰とは、自分の理解を超えていても、それでも、神に信頼することです。ですから、イエス様は、父なる神への信頼を選び取りました。これが、信仰の戦いでした。

3B 信仰による獲得

信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさいと、パウロは勧めていますが、その具体的なことを、イエス様の種蒔きの喩えで考えてみましょう。

1C みことばに対する敬意

「マルコ 4:4 蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。」種は、神のみことばのことです。道端に蒔かれた種は、みことばが蒔かれても、すぐにサタンが来て、そのみことばを取り去ります。信仰の戦いは、第一に、神のみことばへの恐れというか、敬いです。みことばが語られている時に、見向きもしない、違うことを考えている、そういったことを繰り返していると、心は頑なになり、サタンがいつもみことばを取り去ってしまうということが起こります。何度聞いても、まるで一度も聞いていないかようになってしまいます。

2C 試練における真価

「4:5-6 また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったのですぐに芽を出したが、日が昇るとしおれ、根づかずに枯れてしまった。」ここから分かることは、信仰によって生きる時に、困難や試練は、自分を清めることになるということです。試練があれば、神がいるように見えません。しかし、信仰とは、そもそも目に見えないことを確信することです。神がいるように見えない時こそ、信仰を十分に働かせます。そうすることによって、その信仰の真価が試されます。そうして、

信仰が精錬されます。ちょうど、火の中を通過して精錬される金や銀のようです。

3C 誘惑に対する愛

「4:7 また、別の種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びてふさいでしまったので、実を結ばなかった。」茨は、この世の思い煩いや、富の惑わしのことを示しています。したがって、信仰の戦いは、困難や試練の時だけでなく、自分の生活がうまく行っている時、誘惑という形でやってきます。自分の生活が調子よいと、自分が神に頼らなくても生きていけると思いあがってしまいます。そうしているうちに、この世のものが手放せなくなって、神に素直に従うことができなくなっていきます。その時に、それでも私は、イエス様を選びますとして、主を愛することを選び取ります。

イエス様は、魚をたくさん取ることできたペテロに対して、「これらのものより、わたしを愛していますか。(ヨハネ 21:15 参照)」と聞かれました。自分がとても楽しみにしていること、情熱を傾けていることよりも、イエス様への愛がまさっているか？ということです。

4C 立派な心

「4:8 また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」良い土地に落ちるのが、信仰の戦いの中で立派に戦っている姿です。「ルカ 8:15 彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。」立派な良い心で、みことばを聞いています。聞き流すのではなく、聖なる神のことばとして、真剣に受け止めることです。そして、聞くだけでなく、それをしっかり心に留めています。聞くだけであれば、忘れてしまいますが、心に留めていれば、みことばを行うことができますね。そして、忍耐することです。実が結ばれるのは、時間がかかります。あきらめることなく、忍耐して、主を待っていることです。そうすれば、実が結ばれて行きます。

4B 永遠のいのちの賜物

そしてパウロは、「**永遠のいのちを獲得しなさい**」と言っていますが、永遠のいのちは賜物ですね。神から一方的に与えられる、恵みであります。「ロマ 6:23 罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」信仰を持ったら、そのまま神の永遠のいのちが与えられます。第一ヨハネによれば、いのちは御子のうちにあります。ですから、御子を持っているならば、永遠のいのちを持っています。

ここでパウロが、永遠のいのちを獲得しなさいというのは、この霊的ないのちを大事にして、世の与える楽しみと取り替えないようにしなさい。世が、「これをやったら、生きがいがあるよ」と約束しているもののゆえに、キリストにあるいのちを置き去りにすることがないように努める、ということです。イエス様は、数多くの弟子と呼ばれていた人々がイエス様から去っている中、残りの弟子たちに対して語られた言葉があります。「ルカ 18:29-30 まことに、あなたがたに言います。だれでも、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者は、必ずこの世で、その何倍も受け、来

たるべき世で、永遠のいのちを受けます。」

1C 今のいのち

神の国のために生きる時に、犠牲があります。家族や共同体を重んじるイスラエル人の社会の中で、家や、家族と信仰のゆえに切り裂かれるということは、非常に大きな犠牲です。日本も、信仰によって生きる時に、家族との関係が大きな関心事になるでしょう。しかし、たとえ犠牲を払ったとしても、今、生きている時に、損失した分を補って余りある憐れみがあります。例えば、肉の家族を失った人であっても、霊の家族、神の家族が与えられています。

2C 後の報酬

そして、その行き先、つまり、自分が死んだ後か、イエス様が戻って来られてから、かの世が来るのですが、その時に、永遠のいのちをもって生きることができるという約束です。今も、損失分は霊的に補われるし、後の世では、はるかに大きな富を楽しむことができる、ということです。

2A 立派な戦い

このようにしてパウロは、信仰によって生きるのは、神の恵みによるのだけれども、戦いなのだということを教えています。

1B 内なる戦い

この手紙の中では、内なる戦いと外なる戦いについて述べています。

1C 追い求めるもの

内なる戦いとは、自分が追い求めるものを忘れないということです。「6:11 しかし、神の人よ。あなたはこれらのことを避け、義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和を追い求めなさい。」このことを負い認めるんですね。

2C 避けるもの

けれども、この節には、「これらのことを避けなさい」ともあります。それは、富を愛することであり、論争に巻き込まれないようにと注意しています。「6:20 俗悪な無駄話や、間違っって「知識」と呼ばれている反対論を避けなさい。」4 節には、「その人は高慢になっていて、何一つ理解しておらず、議論やことばの争いをする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争いが生じます。」こういったことを避けます。こういったことにテモテは、引きずられそうになっていて、それでパウロが、信仰の戦いを立派に戦いなさいと励ましているのです。追い求めるべきものを求めて、そうでないものを避けます。

2B 外の戦い

これらは自分の心の中の戦いです。外なる戦いもあります。自分自身ではなく、主の真理のゆえ

に戦うこと、偽りの教えがあつて、それに対して戦わないといけないことがあります。

1C 信仰の教え

それは、一つは信じている教えの内容です。パウロがこの手紙の冒頭で、「1:3 ある人たちが違った教えを説いたり」している、と言っていました。教えている内容が異なるのです。この手紙において、真理であると何度となく説いているのは、とてもシンプルなものでした。「キリスト・イエスは罪人を救うために世に來られた。」という言葉です(1:15)。そして、3章16節には敬虔の奥義として、キリストが肉体を取って來られた話をしていました。「キリストは肉において現れ、靈において義とされ、御使いたちに見られ、諸国の民の間で宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」そうではない違った教えに対して、戦わないといけません。

2C 信仰の働き

けれども、パウロはテモテに対して、教えていること、その内容だけではなく、自分自身にも気を付けなさいと教えていました。「4:16a 自分自身にも、教えることにも、よく気をつけなさい。」教えている内容は気を付けないといけません。けれども、言っていることがやっていることと大きく異なっているならば、その言っていることでだまされてはいけないんですね。パウロは、テモテ第二の手紙で、「3:5 見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人たちを避けなさい。」と教えています。

語っていること、その知識は正しい面があるかもしれませんが。けれども、その正しさが、その人の行いには反映されていません。その話していることと、やっていることが、ちぐはぐです。偽預言者というのは、実は、その教えている内容、知識以上に、結局、その人から何の実が結ばれているか？なのです。「マタ 7:15-16a 偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。あなたがたは彼らを実によって見分けることになります。」

つまり、信仰の戦いとは、信仰の教えについての戦いだけではありません。信仰による働きについての戦いでもあるのです。教えていることは、全く正しいように見えて、けれども、そこから義の実、愛の実、敬虔の実、そういったものが見えていない。それは、その正しいように見える、主張していること、教えていることにも、何か異物が入っているのです。そのわずかな異質なものは、見分けにくいです。それが、イエス様が羊の衣を着ていると表現したことであり、巧妙に隠しています。そうした偽りに対抗するのも、信仰の戦いの一部です。

私たちは、神の恵みによって救われました。そして、信仰によって救われました。しかし、戦いがあります。しかし、立派な戦いをすれば、永遠のいのちに至ります。みなさんの信仰の道程に、いろんな石ころや、誘いの言葉があるでしょう。けれども、主は真実な方です。みなさんを、確かに約束のところへ導き入れてくださいます。勇敢に戦いましょう。